

すみかさがし

「内」と「外」の開放と一体化

指導教員 吉松秀樹教授 印

8AEB3108 増澤 克明

1. 問題意識 「街のすみか」

喫茶店や電車の中、普段何気なく求めてしまう「隅」。それは、街の中にも「住処」を感じさせる場として存在していた (Fig.1)。



Fig.1 「内」を感じる場

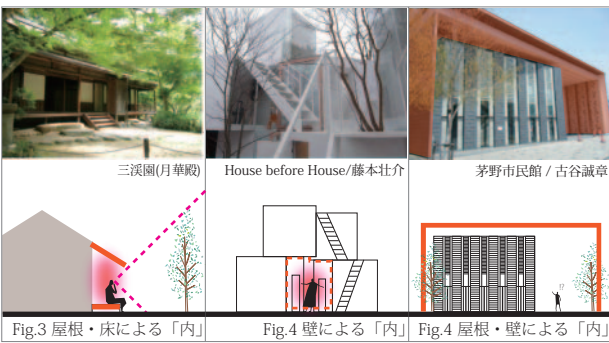
2. 調査・分析 「閉ざされた空間」

「隅が生む住処」とは、閉ざされた空間を住処とする人が感じる「内」らしさである。その「内」らしさというものは他の場でも感じる事が出来た (Fig.2)。

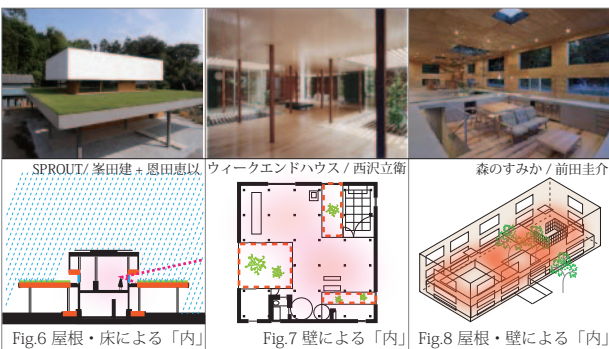


Fig.2 「内」を感じるさせるもの

街の調査から、「内」を構成する屋根・壁・床の関係を感知させる場を見つける事が出来た。これをもとに、建築から「内」らしさを抽出する (Fig.3) (Fig.4) (Fig.5)。



更に質の異なる「内」を探る事で「外」も感じる事は出来ないだろうか (Fig.6) (Fig.7) (Fig.8)。



3. 手法 「風景を切り取る」

断面的・平面的に視界を遮る事で「内」と「外」の一体化空間をつくる。壁の勝ち負けによって生まれた仮想境界は、「内」と「外」の分断を和らげる (Fig.9)。

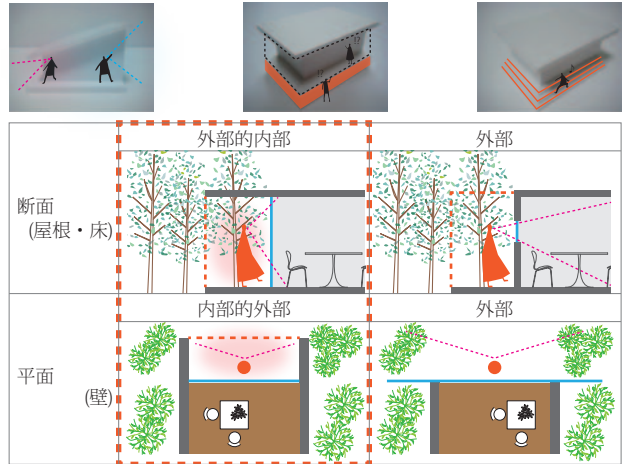


Fig.9 遮られた風景

4. 提案 「共生空間」

手法を用いて、内外が一体となる住宅を提案をする。板の組み換えによって出来た仮想境界は、「内」になりきれていない内部空間をつくり、「外」との関係曖昧にする事で (Fig.10) (Fig.11) (Fig.12)。

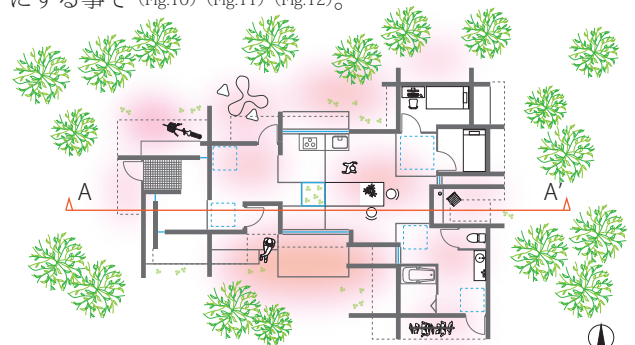


Fig.10 Site Plan



Fig.11 A-A' Section



Fig.12 模型写真